

高台へ移転した新崎の諏訪神社



県道3号線（旧国道7号線）に面した神社

祭神 たけみなかたのみこと
建御名方命
とよけひめのみこと
豊受姫命
やまとたけるのみこと
日本武尊

祭礼 4月9～10日
8月27～28日

1576（天正^{てんしょう}4）年、新崎開墾^{かいこん}のころに創立した神社だと伝わっています。

新発田藩の記録によると新崎の開発は1558（永禄^{えいろく}元）年なので、その18年後に神社が創立したことになります。

もともと、今、阿賀野川となっている場所（諏訪^{すわぎ}木）に神社があったといわれています。

しかし川の流れが変わったことによって、1768（明和^{めいわ}5）年に高台の現在地に移転しました。

境内には、嘉永年間（1848～1854）に村の若者が食べてしまった白蛇を供養するために建てた「白蛇権現供養塚^{ほくじゃごんげんくようづか}」など、さまざまな石造物もあります。祭りでは新崎伊佐弥神楽が舞われます。

「北区のお宝ものがたり」は、北区郷土博物館などで1冊800円で頒布しています。

太古山日長堂たいこさん にっ ちよう どうってお寺さんですか？

泰平橋手前の主要地方道 新潟・新発田・村上線（旧国道7号線）に面した北側に太古山日長堂があります。もともと「新崎7軒衆にいざしちけんしゅう」のひとりで名主なぬしも務めた古山家の邸宅です。

木造平屋建ての主屋「日長堂ほう」は宝暦年間（1751～64）に建てられました。主屋とつながる仏蔵ぶつぐら「開山堂かいざんどう」は19世紀に建てられ、当時の豪農の仏堂の形を伝えています。いずれも2000（平成12）年、国の登録有形文化財となりました。また、邸内の築山の庭園は「太古山」と呼ばれています。

この「太古山日長堂」の名称は、中国の宋の時代の詩人、唐庚とうこうが読んだ「醉眠すいみん」という漢詩の「山静似太古 日長如小年」という一節によります。「山は静かで、まるで太古のようだ。1日は長くて、1年にも感じられる」という意味です。

また、1878（明治11）年の明治天皇の北陸巡幸のときには、小休所として利用されました。1885（明治18）年に古山

家の12代当主となった古山文静ぶんせいは、行幸地ぎょうちの史跡としての整備を積極的に行いました。新崎の創立を記した「新崎邨碑むら」をはじめ、様々な名士、偉人と交流し、その事績や筆跡を刻んだ石碑などを「太古山」にたくさん建てました。

この太古山日長堂のとなりには、「門樋もんひの生き地蔵」と呼ばれる地蔵様を安置しているお堂があります。この地蔵様は台座に「明和2年（1765年）3月」と彫られていて、大変古い地蔵様です。240年以上、地域の人々から厚く信仰されています。

MEMO

新崎7軒衆

新崎開発の祖を新崎7軒衆といえます。戦国時代の天文年間（1532～1554）に信濃国（長野県）から移住してきました。古山家をリーダーに佐藤・伊藤・高橋・井上・土田・豊崎の7家が田畑を開発して村を形成したと伝えられます。子孫は今でも新崎で暮らしています。

